



基本にたちかえる重要性

羽幌町長 駒井久晃

新年明けましておめでとうございます。令和4年の輝かしい新春を、ご家族皆様お揃いでお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、日頃より町行政に対し、多大なるご理解・ご協力をいただいておりますことに、厚くお礼を申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大からまもなく2年が経とうとしています。この間、感染の影響が全世界に想像以上の影響を与えており、出口の見えない閉塞感を抱えておりましたが、感染予防対策の徹底やワクチン接種の進捗等により、感染者数が減少傾向で推移し、ようやく光が見え始めてきたように感じているところであります。とりわけ、町民に対するコロナワクチンの接種等、最前線に立ち続けてこられた医療従事者の皆様をはじめ、多くの皆様のご尽力のおかげでコロナ禍においても私たちの生活が守られておりますことに、改めて、深い敬意と心からの感謝を申し上げます。

しかしながら、新たな変異株による市中感染が相次いで見つかっており、いわゆる第6波の到来が懸念されており、町といたしましては、国や北海道の動向を注視しながら、感染拡大防止や町民生活、町内事業者への支援に努めるとともに、3回目のワクチン接種が安全かつ円滑に実施できますよう、全力をあげて取り組んでまいりる所存であります。町民の皆様におかれましても、引き続き、基本的な感染防止対策の実践を徹底いただきますようお願いいたします。

このような状況の中、昨年を少し振り返りますと、3月には「交通事故死ゼロ2000日」の記録を達成したほか、焼尻島で17年ぶりに「シンの群来を確認」、4月には、天売高校に過去最多となる7名の生徒が入学される等、明るい話題が続きました。

基幹産業であります「農業」では、留萌管内全農協の広域合併により「るもい農業協同組合」が発足し、9月には「農林水産物集出荷貯蔵施設」が竣工。高品質米の安定供給に繋がる

ものと大きく期待を寄せるところであり、「漁業」については、全体的に魚価の上昇が見られたものの、多くの魚種で漁獲量が減少し、主要魚種である「エビ」も、前年と比べ落ち込んでいる状況にあります。しかしながら、「ニン」の漁獲量がここ数年増加の一途を辿っており、本年も豊漁の一年となるよう願っております。

町行政では、総合体育館の管理運営が町直営に移行したほか、災害時等における情報伝達体制の充実・強化として「防災infoはぼろ」の運用を開始、胆振東部地震におけるブラックアウトの教訓から、羽幌浄水場と導水ポンプ場に自家発電設備を整備し、大規模停電時においても水道水の供給を可能とする等、災害対応力の向上に努めてまいりました。また、焼尻島内における移住定住促進対策の一環として、木造2階建て1棟4戸の定住促進団地を建設。人口減少の抑制や今後の交流人口の拡大に大きく期待を寄せているところであります。

さて、令和4年度からは、本町の更なる飛躍を目指す、向こう10か年のまちづくりの指針「第7次羽幌町総合振興計画」がスタートいたします。本計画の策定に当たっては、これまで取り組んできた事業の評価や町民アンケートの意見等をもとに、本町を取り巻く状況を踏まえながら検討を進めてまいりましたが、私が町政を進める上で重要と考えます「産業」「行財政」「医療・介護・福祉」「教育・文化・交流」「防災」「自然環境・土地利用」「住環境」の7つの柱を充実、振興発展していけるよう積極的に取り組んでまいりたいと考えております。引き続き、町民、議会そして町が密接に連携し、産業の振興や地域活性化、安心安全で住みよい環境の築き上げに全身全霊で取り組んでまいりますので、町民の皆様のご強いご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、町民の皆様のご多幸とご健勝を心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。